

## 平成 22 年度森林吸収源インベントリ情報整備事業現地講習会（中国地区）

開催日：2010/11/9~10

場所：11/9 岡山県新見市坂本（格子点 ID 330050）

11/10 岡山県高梁市備中町西山（格子点 ID 330010）

参加者：岡山県 1 名（片桐）、鳥取県 1 名、島根県 2 名、山口県 3 名、森林総研 2 名（大貫、志知）

記録：

1 日目は 13 時過ぎに J R 新見駅で集合し、新見市坂本の千屋ダム脇の調査地へ向かった。上空に寒気が入った影響で時折小雨が降り、非常に寒く感じられる一日であった。調査地はかんらん岩や蛇紋岩に花崗岩の貫入した地質であり、地形は東向きの山腹凸型斜面、斜面上部はコナラやアベマキなどの広葉樹が優占し、下部はスギ人工林であった。1 日目は S と E の二地点に分かれて



堆積有機物調査と土壌炭素蓄積量調査の実習を行った。未経験者を中心に断面記載と試料の採取を行い、経験者が有機物の区分や円筒試料採取のコツなどをアドバイスする形で実習は進められた。両調査終了後に二地点の比較を行い、尾根寄りの S より、谷に近い E で A 層が厚く土色の黒みが強いことを確認して、初日の講習を終了した。

2 日目は 8 時に新見市を出発し、1 時間ほどで高梁市備中町西山の新成羽川ダム脇の調査地に到着した。天候は回復傾向であったが、依然風は冷たかった。調査地の地質は安山岩、地形は非常に急傾斜で地表から巨礫が散在しており、コナラやアラカシなどの広葉樹が優占する林分であった。2 日目は代表断面調査の実習を行った。比較的礫の露出の少ない SW 地点を選定し、参加者が交代で掘削して 70cm 深の代表断面を作成した。この日も未経験者



を中心に代表断面の記載を行った。局所地形については、斜面の頂上が確認できないことから、山腹凸型斜面（浸食面）であるとの説明を行ったが、局所地形の判定が難しいとの意見が出され、図入りのマニュアルを整備する必要性を実感した。代表断面の土壌型は、土壌が乾燥し、A 層の土層が比較的薄くまた土色が淡く、粒状構造および菌糸が認められたことから B<sub>B</sub> 型と判定

した。断面の石礫率は7～70%と多かったために、試料採取に時間を要した。A層については何度かの挑戦でようやく円筒を採取することができた。B層についてはブロックサンプリングを実演し、丁寧に行うためには細心の注意が必要なことを実感した。講習会は予定時間をややオーバーしたものの無事終了し、現地での解散となった。

今回講習会を開催するにあたり、会場の提供や周到な準備をしていただいた岡山県農林水産総合センター森林研究所の皆様にお礼申し上げます。

日程：

11月9日

13:30 JR 新見駅集合

14:00～ 調査地到着、調査地概要説明

2班に分かれて、堆積有機物調査と土壌炭素蓄積量調査の実習

17:00 1日目現地実習終了

11月10日

8:00 出発

9:00～ 調査地到着、代表断面調査の実習

13:30 講習会終了、解散



写真 格子点 330010 の S 地点（左）と代表断面（右）の土壌